

# Citation 2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-338351

(43) 公開日 平成11年(1999)12月10日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 9 F 3/02  
3/10

識別記号

F I

G 0 9 F 3/02  
3/10

A

審査請求 有 請求項の数10 OL (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-12494

(22) 出願日 平成11年(1999)1月20日

(31) 優先権主張番号 98 00613

(32) 優先日 1998年1月21日

(33) 優先権主張国 フランス (FR)

(71) 出願人 391023932

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72) 発明者 バトリス・バレ

フランス・92160・アントニー・リュ・ヴ  
エルボー・64

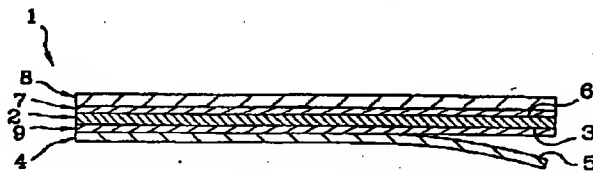
(74) 代理人 弁理士 志賀 正武 (外8名)

(54) 【発明の名称】 化粧品のパッケージ用ラベル

(57) 【要約】

【課題】 優れた印刷解像度を有し、布地タイプの感触を有する低コストのラベル及びこうしたラベルを貼付した包装を提供する。

【解決手段】 印刷基質及び印刷基質の上に配された透明な不織フィルムを具備してなるラベルを製造する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 印刷基質(2)及び印刷基質(2)の上におかれた不織フィルム(8)を具備し、前記フィルム(8)が透明であり、基質(2)上の印刷がフィルム(8)を通して見える化粧品の包装に貼付するためのラベル(1)。

【請求項2】 不織フィルム(8)に対する基質(2)の裏面(3)が、剥離シートが貼着されてなる粘着層(9)に被覆され、粘着層(9)と接したシート(4)の面(5)が、非粘着物質、特にシリコンで被覆されてなることを特徴とする請求項1に記載のラベル。

【請求項3】 前記シート(4)が、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン及び紙より選択される材料からなることを特徴とする請求項2に記載のラベル。

【請求項4】 前記不織フィルム(8)が、接着剤またはニス(7)を用いた接着によって基質(2)に貼着されてなることを特徴とする請求項1から3のいずれか一項に記載のラベル。

【請求項5】 前記基質(2)が、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、塩化ポリビニル、ポリエチレンテレフタレート及び紙より選択される材料からなることを特徴とする請求項1から4のいずれか一項に記載のラベル。

【請求項6】 基質(2)が、20から200 $\mu\text{m}$ 、好ましくは40から100 $\mu\text{m}$ の厚さを有することを特徴とする請求項1から5のいずれか一項に記載のラベル。

【請求項7】 不織フィルム(8)が、熱可塑性繊維、好ましくはポリオレフィン繊維、例えばポリプロピレンまたはポリエチレン繊維、あるいはポリエステル繊維であることを特徴とする請求項1から6のいずれか一項に記載のラベル。

【請求項8】 不織フィルム(8)が、20から500 $\mu\text{m}$ 、好ましくは100から300 $\mu\text{m}$ の厚さを有することを特徴とする請求項1から7のいずれか一項に記載のラベル。

【請求項9】 請求項1から8のいずれか一項に記載のラベル(1)を具備する容器(10)。

【請求項10】 瓶、チューブまたは缶からなることを特徴とする請求項9に記載の容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、特に化粧品の包装への貼付を目的とするラベルに関する。本発明のラベルは、特に瓶、例えばシャンプー、ローション、美容クリームまたはゲル、特に洗浄ゲルの包装に使用されるものに最適である。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、化粧品の分野で使用されるラベルは、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、塩化ポリビニル、ポリエチレンテレフタレート及び紙等の材料製の

のり不要のシートにより形成される。粘着層に対するシートの裏面は、特にスクリーン印刷、凸版印刷、フレキソ印刷またはオフセット印刷により印刷されている。任意に、印刷面にはニス(7)が塗布される。こうしたラベルは、比較的滑らかな“感触”によって特徴付けられる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この化粧品の包装の分野では、包装の外観及び機能的特徴の両方の観点において、及び感覚、特に感触上の観点において、常に新たな発想が求められている。したがって、既存の熱可塑性タイプの瓶の“感触”を、よりソフトなタイプの感触、例えば布地の感触などに置き換えることが求められている。

【0004】 不織布等の物質への印刷には、特に印刷の解像度の問題が起きることが判明している。これらの問題は、特に、織布のものに比べて粗い、こうした物質の特性による。このように、日本国特許出願7040514号には、不織布をポリエステル樹脂を主成分とする印刷層で被覆することが記載されている。こうした操作の費用に関する欠点を別にしても、この取り組みは、ポリエステル樹脂の存在のため、不織布の感触に著しく影響し、これを従来のタイプの熱可塑性物質の感触と同様にしてしまう。

【0005】 したがって、本発明の目的の一つは、化粧品の包装の装飾及び印付けに特に好適であり、従来のラベルとは異なる感触及び外観を供するラベルを製造することである。

【0006】 本発明の目的の一つは、特に、優れた解像度で得られ布地タイプの感触を有する低コストのラベルを提供することである。本発明のさらに別の目的は、本発明のラベルを貼付した包装を製造することである。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明の第一の実施態様によれば、これらの目的は、印刷基質及び印刷基質の上におかれた不織フィルムを具備し、前記フィルムが透明であり、基質上の印刷がフィルムを通して見えるような、特に化粧品の包装に貼付することを目的とするラベルを製造することにより達成される。

## 【0008】

【発明の実施の形態】 したがって、ラベルは布地の感触を有すると共に、従来のラベルのこの上ない印刷特性、特に印刷解像度を維持する。その与える感触とは別にしても、化粧品分野においてこの感触は、こうしたラベルを貼付した容器のつかみ易さを向上させる点で、特にこの容器が浴室環境下、特にシャワーの下での使用を目的とする場合にはこの上なく望ましい。

【0009】 不織フィルムに対する基質の裏面が、包装への貼付に先立って剥離シートが貼着された粘着層に被覆され、粘着層と接した剥離シートの面が、非粘着物質、特にシリコンで被覆されていることが望ましい。

しかしながら、ラベルは、のり不要のタイプでなくともよい。この場合は、予定した表面にラベルを貼付する前に、ラベルと前記表面のいずれかを粘着組成物で被覆する。

【0010】こうしたシートは、特に、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン及び紙より選択可能な材料からなる。

【0011】好ましい実施態様によれば、不織フィルムは接着剤またはニスを用いた接着によって基質に固定される。

【0012】基質は、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、塩化ポリビニル、ポリエチレンテレフタレート及び紙より選択可能な材料からなる。その厚さとしては、20から200 $\mu\text{m}$ 、好ましくは40から100 $\mu\text{m}$ が可能である。こうした基質は、厚過ぎるものであってはならず、最終的なラベルが適度に柔軟でラベルを貼付しようとする表面の外形に沿うものとする。基質は透明であることが好ましく、その場合は基質の印刷面は、不織フィルムに面した面でも不織フィルムに対して裏面でもよい。

【0013】不織布は、熱可塑性繊維、特にポリオレフィン繊維、例えばポリプロピレンまたはポリエチレン繊維、またはポリエステル繊維の不織布であってよい。その色は、白色、あるいはわずかに着色したものであることが好ましい。得られる色は、不織布の性質及び厚さによって異なる。実際に、非常に多様なタイプの外観及び感触が得られ、これは、得ようとする特性に応じて絹のようなものから徐々に相違する多段階を経て粗いものにまで渡る。

【0014】典型的には、不織布の厚さは20から500 $\mu\text{m}$ 、好ましくは100から300 $\mu\text{m}$ である。この厚さは、厚過ぎてはならず、印刷した装飾が見えるほど十分に透明でなければならない。しかしながら、望ましい感触を与えるに十分なものでなければならない。

【0015】本発明の別の態様は、第一の態様によるラベルを具備する容器を提供する。こうした容器は、瓶、例えば従来よりシャンプー、洗浄ジェル、ローション等の実装に使用されているものからなることが好ましい。さらなる例として、こうしたラベルを缶、例えばエアロゾル缶、またはチューブに貼着しても良い。

【0016】上述の装置を別としても、本発明は、いかに非限定的実施例として添付の図を参照して説明される多数の別の装置からなる。

・図1は、本発明のラベルの好ましい実施態様の横断面図を表し；

・図2は、本発明の容器の一実施態様である。

【0017】

【実施例】図1のラベル1は、透明であるなしによらない、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、塩化ポリビニル、紙またはポリエチレンテレフタレート製の印刷可

能な基質2を有する。純粋に例示であるが、高密度ポリエチレン基質の場合には、その厚さは約80から100 $\mu\text{m}$ である。ポリプロピレンの場合には、その厚さは約40から60 $\mu\text{m}$ である。紙の場合には、その厚さは約100 $\mu\text{m}$ である。他の材料もまた使用可能である。

【0018】基質の一方の面6は印刷され、特に製品の内容表示及び商標または商品名に関する情報、あるいは純粋に装飾目的の他のあらゆる情報を担持している。印刷は、既知のあらゆる方法、特にスクリーン印刷、凸版印刷、フレキソ印刷またはオフセット印刷によって実行される。

【0019】基質2の印刷面6に対する裏の面3は、特にポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン及び紙より選択される材料からなり、除去可能のように剥離シート4が貼着された粘着組成物9で被覆されている。粘着組成物9と接する剥離シート4の面5は、非粘着性層、特にシリコーン層により被覆されている。シート4は、包装にラベルを貼付する直前に除去される。

【0020】基質の印刷面上には、粘着層7、特に優れた粘着特性を有する接着剤またはニスが配される。

【0021】けば立てた不織布のフィルム8が基質2の印刷面を被覆するが、この面には粘着層7によってフィルムが貼着されている。こうした不織布のフィルムは、比較的にきつく凝集させた繊維の塊、特に合成繊維から形成され、これは既知の方法で、一方が加熱され、接着点を形成する反対の打ち出しを有する二つのローラーの間を通すことによるホット・ラミネーションにより、互いに接着させる。例えば、ポリオレフィン不織布、特にポリプロピレンまたはポリエチレン不織布が使用される。変形としては、ポリエステル不織布が使用される。フィルム8の厚さは、約100 $\mu\text{m}$ から300 $\mu\text{m}$ である。

【0022】こうした実施態様では、不織フィルムの接触透明性のため、基質2の面6に印刷された情報は不織フィルムを通して見える。

【0023】図2には、図1に記載したラベルで被覆した容器10の実施態様を示されている。こうした容器は卵形の横断面の瓶の形態であり、その本体は二つの主要表面を有し、ラベル1はこれら二つの主表面の一方に貼着されている。同様に、こうした容器はチューブまたは缶、例えばエアロゾル缶またはスプレー缶であってもよい。

【0024】上述の詳細な説明においては、本発明の好ましい実施態様を参照した。これについて、請求の範囲に記載した本発明の範囲から外れることなく変形が実行可能であることは明らかである。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明によるラベルの断面図である。

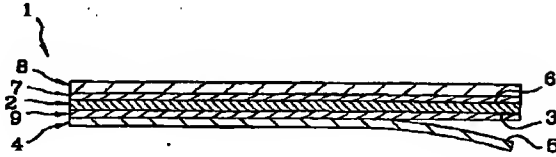
【図2】図2は、本発明によるラベルを貼着した容器の図である。

## 【符号の説明】

1…ラベル、2…基質、3…不織フィルムに対する基質の裏面、4…シート、5…粘着層と接したシートの面、

6…基質の印刷面、7…接着剤またはニス、8…不織フィルム、9…粘着層、10…容器。

【図1】



【図2】

